

早稲田大学 社会科学部 数学 講評

出題形式	記述式
試験時間	60分
特徴・その他	

〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
1	確率	(1)や(2)は簡単である。数えモレに気を付けたい。36通りしかないので表を書くなり慎重に解いてほしい。(3)はまず左辺を因数分解しよう。	標準
2	常用対数	桁数は有名だが、1の位の数や最高位の数については盲点だった受験生もいるので差が付いただろう。最高位の次の位の数の出題は目新しい。例えば765は6だが700を引いた65の最高位の数が6であると考えろ。簡単な例をもとに実験してみるしかない。	標準
3	空間図形	円錐の側面の方程式が出てきたので見かけに圧倒され手も付けなかった受験生も多かったと思われる。(1)は図形的に解いても良いが、図形がイメージできなければ数式で処理すればよい。 y^2 が0以上ということを t, z に伝えるのみ。(2)は $x = t$ という平面に限定した話なので単に2点間の距離を使うだけ。(3)は2次関数の最大。ただし(1)の範囲を利用して場合分けをする。	標準

〔総合コメント〕

難易度と問題量は例年通りであった。60分に対する問題量も適切である。問題1はケアレスミスが怖い。問題2は桁数や最高位など根本的なことを理解していれば完答できるが、そうでないとあまり得点できず差が付く。問題3は(1)の範囲をだせれば完答が可能なので、これも差が付く1題となった。